

## Translation of Japanese Examiner's Comments

Claims 1 to 11:

Cited References 1, 2

Remarks

(1) Claim 1

"あいさつ [Greeting]" "移動 [Movement]", "数字・買い物 [Numerals・Shopping]", etc. in Fig. 5 of Reference 1 correspond to "first means for making an information display section display predetermined options for setting a conversational situation" in the present application. In Fig. 5, ホテル [hotel] – *hotel*, 空港 [airport] – *bandara*, バス停 [bus stop] – *halte bis*, etc. correspond to "second means for making an information display section display language units".

(2) Claim 2

The tables 1 to 6 in Reference 1 correspond to the "database" in the present application. Fig. 5 in Reference 1 shows that the language units corresponding to claim 2 in which the conversational situation are searched and displayed.

(3) Claim 4

A plurality of stages of options in claim 4 are shown in 主分野テーブル [main field table] in Table 4, 分野フィールド [field] in Table 5 and 単語別分野テーブル [field-by-word table] in Table 6 of Reference 1.

(4) Claim 5

Reference 2 shows a combination of two phrases "韓定食 [Korean lunch]" and "を1人前下さい。[I'll have one]". Therefore, it is not difficult in Reference 1 to "combine and display a plurality of language units" as set forth in claim 5.

(5) Claim 6

As shown at "サヤマウク〇〇 [*saya mau ke* 〇〇]" and "〇〇へ行きたい [I want to go 〇〇]" in Fig. 5 of Reference 1, it is a matter of course and is not difficult to "combine a plurality of language units in compliance with a syntax rule" as set forth in claim 6.

(6) Claim 7

In Fig. 5 of Reference 1, images are displayed adjacent to ホテル [hotel] – *hotel*, 空港 [airport] – *bandara*, バス停 [bus stop] – *halte bis*, etc.

(7) Claims 8, 9

The server in claim 8 and the communication device in claim 9 are shown in Figs. 6 and 7 of Reference 1.

(8) Claim 10

The storage medium in claim 10 in which the database is previously stored is well known.

(9) Claim 11

Because the portable device having the storage unit is well known, it is not difficult to provide the "mobile terminal" in Reference 1 with the "storage unit in which the database is previously stored".

#### List of References

1. "Proposal of Multilingual Communication Assist System", Toyomichi Yamada, Yumiko Shimizu and Hiroshi Seki, Musashi Institute of Technology, Faculty of Environmental and Information Studies, Journal of The Center for Information Studies 2001. 4, No. 2, April 2001

2. Japanese Unexamined Patent Application Publication (JP-A) No. H2-42570

#### [Translator's Notes]

Italic letters show Indonesian language. Reference 1 shows Japanese and Indonesian languages as examples of different languages.

## 拒絶理由通知書

審判請求の番号	不服2004- 2429
(特許出願の番号)	(特願2001-355157)
起案日	平成18年 9月 5日
審判長 特許庁審判官	大日方 和幸
請求人	株式会社エビデンス 様
代理人弁理士	池田 憲保 様

この審判事件に関する出願は、合議の結果、以下の理由によって拒絶すべきものと認められます。これについて意見がありましたら、この通知の発送の日から60日以内に意見書を提出して下さい。

## 理 由

A) 本件出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前日本国内または外国において頒布された下記の刊行物に記載された発明に基づいて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第29条第2項の規定により特許を受けることができない。

B) 本件出願は、明細書及び図面の記載が下記の点で不備のため、特許法第36条第4項及び第6項第2号に規定する要件を満たしていない。

## 記

平成16年3月4日付けの手續補正は却下された（その理由は、後記のとおり）ので、本願は、平成15年1月24日付け手續補正書の特許請求の範囲の請求項1乃至11に記載された事項により特定される。

## 【理由Aについて】

- ・請求項1乃至11
- ・引用刊行物1、2
- ・備考

## (1) 請求項1について

引用刊行物1の図5の「あいさつ」、「移動」、「数字・買い物」等は、本願の「情報表示部に会話の状況設定のために複数の選択肢を表示する第1の手段」に相当している。また、その図5のホテル-hotel、空港-bandara、バス停-halte bis等は、本願の「情報表示部に複数の言語単位を表示する第2の手段」に相当している。

(2) 請求項2について

引用刊行物1の表1乃至6に示されるテーブルは、本願の「データベース」に相当している。また、請求項2のように会話の状況に対応した言語単位が複数個検索され、表示されることは、引用刊行物1の図5に示されている。

(3) 請求項4について

請求項4のような複数段の選択肢は、引用刊行物1の表4の主分野テーブル、表5の分野フィールド、表6の単語別分野テーブルに示されている。

(4) 請求項5について

引用刊行物2に「韓定食」と「を1人前下さい。」と2つの語を連結して表示しているから、引用刊行物1において、請求項5のように「複数の言語単位を連結して表示する」ことは、格別困難性を要しないことと認められる。

(5) 請求項6について

請求項6のように「文法規則により連結され」ることは、引用刊行物1の図5「サヤマウク〇〇」と「〇〇へ行きたい」に示されているように、言語として当然の条件であり、格別困難性を要しないことと認められる。

(6) 請求項7について

引用刊行物1の図5は、ホテル-hotel、空港-bandara、バス停-halte bis等の横に、画像表現表示されている。

(7) 請求項8、9について

請求項8のようなサーバ、請求項9のような通信機器は引用刊行物1の図6、図7に記載されている。

(8) 請求項10について

請求項10のようにデータベースを予め格納した記憶媒体は周知である。

(9) 請求項11について

記憶装置を備えた携帯機器が周知であるから、引用刊行物1の「モバイル端末」に「データベースを予め格納した記憶装置」を備えるようにすることは、格別困難性を要しないことと認められる。

引用文献等一覧

1. 武蔵工業大学環境情報学部 情報メディアセンタージャーナル2001.4第2号  
山田 豊通、清水 由美子、関 裕志 著、「異言語間コミュニケーション支援システムの提案」、2001年4月
2. 特開平2-42570号公報

【理由Bについて】

請求項3の「言語単位あるいはその一部を用いて前記選択肢を情報表示部に表示する」について実施例が説明されておらず、どのように実施するのか不明である。また、「言語単位の一部」とはどのような意味が明確でない。

なお、平成16年3月4日付けの手續補正についての補正却下の概要は以下のとおりである。

【1】手續きの経緯

本願は、平成13年11月20日に特許出願されたものであって、平成14年11月21日付けで拒絶の理由が通知され、平成15年1月24日付けで手續補正書及び意見書が提出され、平成15年12月26日付けで拒絶査定され、その後平成16年2月6日付けで審判請求がなされ、さらに、平成16年3月4日付けで手續補正書が提出されたものである。

【2】平成16年3月4日付け手續補正

平成16年3月4日付け手續補正（以下「本件補正」という。）は少なくとも特許請求の範囲の請求項2を以下のとおり補正するものである。

「【請求項2】 複数の言語間における実際の会話を支援する多言語間会話支援システムであって、会話の状況を設定するために、複数の選択肢を情報表示部に表示すると共に、前記設定された状況に対応した複数の言語単位を情報表示部に表示することにより、前記情報表示部に複数の選択肢及び複数の言語単位を表示するデータベースを備え、前記データベースは、前記選択肢に関する画像を識別番号と共に格納する第1の領域と、前記選択肢に関する文字コードを識別番号と共に格納する第2の領域とを備え、前記画像を複数の言語において、共通に使用することを特徴とする多言語間会話支援システム。」

【3】当審の判断

本件補正の「前記選択肢に関する文字コードを識別番号と共に格納する第2の領域」は、本願の当初明細書及び図面には、記載されておらず、また、示唆されているとも認められないから、願書に最初に添付した明細書又は図面に記載した事項の範囲内においてしていない。

したがって、本件補正は特許法第17条の2第3項に規定する、願書に最初に添付した明細書又は図面に記載した事項の範囲内においてしていないものである。

【4】むすび

以上のとおり、本件補正は、願書に最初に添付した明細書又は図面に記載した事項の範囲内においてしていないのであるから、特許法第17条の2第3項の規定に違反するものであり、同法第159条第1項で準用する同法第53条第1項の規定により却下すべきものである。

この通知に関するお問い合わせがございましたら、下記までご連絡ください。

審判部第27部門 審判官 植松 伸二

電話03(3581)1101 内線3727

ファクシミリ03(3584)1982